

# 人文学・社会科学の研究成果の モニタリング指標について (骨子案)

2022年8月1日

文部科学省

研究振興局 振興企画課 学術企画室

# 目次

---

1. 検討の経緯

---

2. 人文学・社会科学における研究成果発表の現状と課題

---

3. 主要な成果発表媒体の特徴

---

4. 海外の動向

---

5. 人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について

---

6. 今後の課題

---

参考資料

# 1. 検討の経緯

人文学・社会科学を含めた研究評価に関しては、これまで政府や研究者コミュニティなど各方面で検討がなされてきた。文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学の在り方に関するワーキンググループでは、2018年12月に「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議のまとめ）」をまとめ、人文学・社会科学の学術研究における評価の検討の方向性を示している。

日本学術会議においては、これまで幾度の提言や報告が出され、2021年11月には、科学者委員会研究評価分科会より「学術の振興に寄与する研究評価を目指して～望ましい研究評価に向けた課題と展望～」がまとめられた。

また2020年に科学技術・イノベーション基本法が成立し、「人文学・社会科学（法では「人文科学」と記載）のみ」に係るものが、同法の対象である「科学技術」の範囲に位置付けられた。これに伴い、自然科学と同様に、人文学・社会科学の研究成果も客観的に可視化されることが必要になった。これまでの各方面での検討状況や基本法改正の趣旨、人文学・社会科学の多様性と特性を踏まえ、第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年3月閣議決定）で「人文・社会科学や総合知に関連する指標について、2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する」とされているとおり、**研究評価指標ではなく、研究成果に関連するモニタリング指標について、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会において検討を行った。**

# 1. 検討の経緯

本委員会では、2022年1月から「人文学・社会科学のモニタリング指標」について検討を開始し、有識者からのヒアリングを重ねてきた。

また、検討にあたっては、「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）において示された論点を踏まえ、

**①どのような活用目的を前提に、人文学・社会科学に関連するモニタリング指標を設定すべきか**

**②人文学・社会科学の特性に応じた多角的なモニタリング指標をどのように設定すべきか**

**③人文学・社会科学に関連するモニタリング指標の国際的通用性をどのように図るべきか**

について、論点として検討を行った。

## 2. 人文学・社会科学における研究成果発表の現状と課題

- 人文学・社会科学の研究成果発表の留意すべき多様性として、
- 論文や書籍など成果発表媒体が多様であること
  - 人文学の一部の分野は、言語や地域に密接に関連した研究を行っており、当該言語で発表されることが多いため、発表言語が多様となること
  - 社会的な機能によるインパクトが多方面に多様な形で生じていること
- の3点が挙げられる。

### 成果発表媒体における多様性

自然科学では研究成果は論文で発表することが一般的であるが、我が国の人文学・社会科学の成果発表の形態は、国際ジャーナル論文だけにとどまらず、国内ジャーナル論文等（学会誌、大学紀要含む）や書籍（共著、一部執筆を含む）、学会発表、会議論文、展示など多様である。またこれらのアウトプットに関連して、表彰、製品、知的財産権などの短中期的な効果であるアウトカムがもたらされる。

2008年及び2016年に国立大学法人評価の研究業績水準判定に提出された研究成果（※1）について見ると、経営学はジャーナル論文の比率が高いが、歴史学は著者/編著の比率が高い。このように人文学・社会科学の中でも、分野によって成果発表の媒体が異なる。

また英国UKRIが運営するGtRのデータ（※2）によれば、人文学・社会科学においても論文が最も多く報告されているが、その集中度については分野間の差が大きい。法学、文学・言語学等は論文は4割強にとどまっており、学会予稿や書籍チャプターの割合が高い。

## 2. 人文学・社会科学における研究成果発表の現状と課題

### 発表言語における多様性

言語学、歴史学、民俗学など研究対象となる地域のコンテクストに依拠する研究の場合、当該地域の言語で発表されることが多い。一方で、経済学など国際的な成果発信が一般的に行われている分野もあり、発表言語は多様となっている。

### 社会的インパクトにおける多様性

人文学・社会科学の社会的な機能によるインパクトは、計量的にモニタリングする手法が現時点では存在しないため、今回のモニタリング対象とはしない。一方で、社会的インパクトは、社会全体の啓発から個別の地域住民の理解増進など、多方面で、多様な形で生じており、人文学・社会科学の研究成果の一つとして、記述的な手法などを用いて、適切に捉えていくことが必要である。

※1 林隆之ほか（2021）「研究成果指標における多様性と標準化の両立 - 人文・社会科学に焦点を置いて -」, 政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センター (SciREX センター)ワーキングペーパー.  
<http://doi.org/10.24545/00001816>

※2 小柴等・岡村麻子・村木志穂（2021）「英国における公的資金成果の試行的分析」, NISTEP DISCUSSION PAPER, No. 203, NISTEP, Tokyo.  
<https://doi.org/10.15108/dp203>

### 3. 主要な成果発表媒体の特徴

#### 【国際ジャーナル論文】

国際ジャーナル論文は、経済学、心理学、経営学等の一部の分野においては主要な発表媒体の一つである。また書誌情報（著者名、所属機関、被引用数等、DOI等）がデータベースとして整理されている。社会科学の一部の分野及び学際分野において、論文数や被引用数等をモニタリングすることは考えられる。

このようなデータベースであるScopusやWoSにおける収録率は自然科学分野と比べると低く、例えば2020年度の間人文化研究機構内の研究者によって執筆された論文について、Scopus論文捕捉率は30%程度である（※3）。

#### 【国内ジャーナル論文等（学会誌、大学紀要含む）】

国内ジャーナル論文等（学会誌、大学紀要含む）は、主要な発表媒体の一つである。主要な発行機関（民間出版社、大学、学会）、発行頻度、流通規模などが多様であり、必ずしも網羅的なデータベースが存在しないが、例えばJ-STAGEでは、書誌情報（著者名、所属機関、被引用数等、分野、DOI等）が整理されており、記事数やダウンロード数、被引用数等をモニタリングすることは考えられる。

#### 【プレプリント（査読前論文）】

人文学・社会科学においても、一部の分野ではプレプリントサーバへの投稿が行われている（※4）。科学技術・学術政策研究所が2021年に公表した「プレプリントの利活用と認識に関する調査」（※5）によると、プレプリントの公開経験があると回答した割合は6.9%だったが、今後分野においてプレプリントの利用が「進むと思う」と「やや進むと思う」回答した割合は35.7%であった。

また2022年3月には、人文学・社会科学を含むあらゆる研究分野に関連するプレプリントを、日本語または英語で投稿・公開することができるプレプリントサーバー「Jxiv（ジェイカイク）」の運用が開始されている。

※3 後藤真「人社系研究力評価のための状況把握の可能性」, 文部科学省 第11期人文学・社会科学特別委員会第10回（2022年3月28日）。

※4 プレプリントは、その後査読付きジャーナルに投稿する際に、二重投稿として扱われてしまう場合があるという課題を抱えている。

※5 池内有為, 林和弘「プレプリントの利活用と認識に関する調査」, NISTEP RESEARCH MATERIAL, No. 301, 文部科学省科学技術・学術政策研究所。

<https://doi.org/10.15108/rm301>

### 3. 主要な成果発表媒体の特徴

#### 【書籍】

書籍については、主要な発表媒体の一つである（単著だけでなく、共著や一部の章の執筆などの執筆形態もある）。但し、日本の出版界において、学術出版社と一般の出版社の区分が明確ではなく、また人文学・社会科学の研究者は、研究者だけでなく一般読者をターゲットに含む書籍を執筆する場合もある。そのため、研究成果としての書籍を限定して、モニタリングすることは極めて困難である。

代替措置として、大学図書館等で購入された書籍の書誌情報（著者名、所属機関、分野等）が登録されているCiNii Booksの書籍数をモニタリングすることは考えられる。但し、CiNii Booksは、大学図書館等が購入した書籍に限られるため、全ての人文学・社会科学の研究成果としての書籍を網羅しておらず、また購入した書籍についても、学術専門書や一般書などの区別が明確になっていないものに留意が必要である。また、DOIを持たない書籍が多く、所属機関の情報についても入力が必要ではないことから、名寄せが困難な場合もある。加えて書籍の被引用情報はほとんどない。

※図書館職員がCiNii Booksに登録する際、（株）図書館流通センターが全ての商業流通する書籍に付与する書誌データであるTRC MARCを利用している。

ScopusやWoSには、我が国の人文学・社会科学の研究成果としての書籍は、英語訳が少ないこともあり、ほぼ掲載されていない。例えば、2020年度の間人文化研究機構内の研究者によって執筆された書籍について、Scopus著書捕捉率は2%程度である(※6)。



### 3. 主要な成果発表媒体の特徴

#### 【その他（表彰、展示、知的財産権など）】

表彰、展示、知的財産権などは、網羅的なデータベースは存在せず、研究者の所属機関がHPで公開されている研究者情報の中で掲載されるなどしているため、現時点で指標としてモニタリングすることは困難である。

一方で、研究成果の発信という観点からは、JSTが普及しているresearchmap等への登録が進むことが期待される。また 芸術系分野については、日本現代アートの資料等を収載する「Art Platform Japan」の今後の発展が期待される。

## 4. 海外の動向

### (ノルウェーモデル)

人文学・社会科学を含めた定量的指標による研究成果測定として、北欧諸国等で「ノルウェーモデル」が実施されている。国際ジャーナル論文だけでなく、国内ジャーナル論文や書籍等について、発表メディアの質を設定し、その重みづけを集計して資金配分に反映させるものである。学術出版物の定義やランク付けについて、日本とは出版界の前提（データベースや出版文化）が異なることから、公平性、研究者コミュニティの理解の面で日本における実施については課題が多い。

### (英国におけるREF)

人文学・社会科学を含めた社会的インパクトの測定として、英国で「REF」が実施されている。アウトプットの質（60%）、研究環境（15%）、社会的・経済的・文化的インパクト（25%）を評価基準とし、インパクトについては、領域、種類、到達範囲と重要性の指標を具体的に例示し、研究者1人あたり5点までの業績資料を提出し（全業績：推定21万点）、ピアレビューにより測定するものである。膨大な資料をピアレビューする人的・経済的コストと定性的評価への信頼及び標準化が課題である。

### (国際的研究コミュニティの動向)

「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」や「研究計量に関するライデン声明」では、インパクトファクター偏重に慎重になること、定量的評価はピアレビューの参考すること、優れた地域的研究を保護すること、分野により発表と被引用の慣行は異なることに留意することなどが求められている。

これら海外の事例は、特定の国などの限定された地域で、研究コミュニティだけでなく国民を含めた社会全体で共通理解がある定量的指標の利用や、ピアレビューを基本として多大な人的・経済的コストをかけた定性的指標の利用などがあるが、近年見直しの動きがあり、日本における検討においてもその動向を慎重に見極める必要がある。

## 5. 人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について

### (目的)

2020年に科学技術・イノベーション基本法が成立し、これまで科学技術の規定から除外されていた「人文・社会科学（法では「人文科学」と記載）のみ」に係るものが、同法の対象である「科学技術」の範囲に位置づけられた。そのため人文学・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用を促進するために、学術及び科学技術の観点から、人文学・社会科学の研究活動を可視化し、振興を図っていく必要がある。

また人文学・社会科学の研究成果が可視化され、発信されることで、国民の理解増進につながる。

### (方針)

内閣府CSTIにおいて行われている「研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討」で上げられている3つの研究力の柱に、人文学・社会科学の特性を踏まえた研究力の柱を加えた、5つの研究力の柱の観点から、指標を設定しモニタリングしてはどうか。

## 5. 人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について

### (指標の対象とする研究活動の成果)

人文学・社会科学の研究活動の成果は多様であり、論文等のアウトプットあるいはアウトカムに限らず、社会・経済・文化などに中長期的且つ多面的なインパクト等がある。指標の開発にあたっては、研究活動の成果は多様な形で表出するということを踏まえる必要がある。

一方で、人文学・社会科学に限らずインパクト等の指標については今後の検討課題である。  
⇒そのため、今回のモニタリングにおいてはアウトプット及び関連するアウトカムの指標を対象とする。



## 研究力の柱

## 研究成果

アウトプット

アウトカム

真理を探究、基本原理を解明し、卓越した成果を生み出す力  
(※内閣府「研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討」より)

自国の言語で実施できる研究力  
(※補強指標)

研究活動の国際化の進展度  
(※補強指標)

新領域を開拓し、多様な研究を遂行する力  
(※内閣府「研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討」より)

イノベーション指向の独創的な新技術を創出する力  
(※内閣府「研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討」より)

国際ジャーナル論文

国内ジャーナル論文等 (学会誌、大学紀要含む)

書籍 (単著、共著、一部の章)

プレプリント

国際共著

翻訳

学会発表

プロシーディングス

会議論文

h-index (厚み指標)

表賞

iMD

カンファレンスへの採択

データ、ソフトウェア

意匠

作品

舞台

展示

サイエスマップ領域数

有識者会議への参加

サイエンスリンケージ

メディアへの露出

他分野との連携 (総合知)

産学共同研究

特許

人文学・社会科学分野の研究活動を一定程度可視化し、関連する政策効果の測定を図る

人文・社会科学の厚みのある知の蓄積、総合知の創出・活用

※上記の指標の候補は、人文学・社会科学のアウトプット、アウトカムを示す指標の一部である。内閣府で行われている「研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討」を人文学・社会科学分野の特性を踏まえて補強している。

今回のモニタリングの対象としているものは、実線で示している。

## 5. 人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について

### 研究成果媒体に基づく指標

これまでの検討を踏まえ、以下のような指標について、モニタリングしてはどうか。

- 国際ジャーナル論文
- 国内ジャーナル論文等（学会誌、大学紀要含む）
- プレプリント
- 書籍

### その他

上記の研究成果媒体に基づく指標を補完するために、以下の調査結果も参照してはどうか。

- 他分野との連携状況の把握…科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査）など、研究者に対する意識調査の結果から、他分野との連携（総合知）状況を把握する。
- 新領域を含む研究動向の把握…NISTEPサイエンスマップ調査など、論文データベース等の分析により、注目を集めている研究領域や新興・融合領域を把握する。

## 6. 今後の課題

### （書籍に関するデータの充実）

書籍は、量的側面について、前述のとおり網羅的に実態を把握することが現時点では困難である。図書館に所蔵されていない書籍などについては、例えばTRC MARCなどの民間データベースとの連携も含め、引き続き検討していく必要がある。さらに質的側面については、書籍に関する被引用情報の可視化に向けて、引き続き検討していく必要がある。

### （社会的インパクト）

社会的インパクトは、計量的にモニタリングする手法が現時点では存在しないため、今回のモニタリング対象とはしないが、人文学・社会科学の研究成果の一つとして、記述的な手法などを用いて、適切に捉えていく必要がある。

### （国際性の向上）

人文学・社会科学の研究成果を国際的に発信することは、学術研究の水準向上や新たな知的展開という観点から極めて有意義であるが、未だなお課題が多い。分野ごとの特性には十分な留意した上で、国際ジャーナルへの投稿や国際シンポジウムにおける発表等を促進するとともに、研究成果のデジタル化を進めていくことが重要である。この点について注目すべき取組として、F1000への投稿を推進している筑波大学における試みが挙げられる。また自国語による研究業績の国際的発信を強化していくことも重要である。

### （芸術系分野における指標）

芸術系分野においては、実演家としての成果が研究成果として所属機関や研究者コミュニティで受け入れられていることが多く、テンポラリーなものも含む幅広い成果の形態があり、独自の指標設定が必要である。指標設定に向けては、作品情報のデータベース化が進展することなどが期待される。

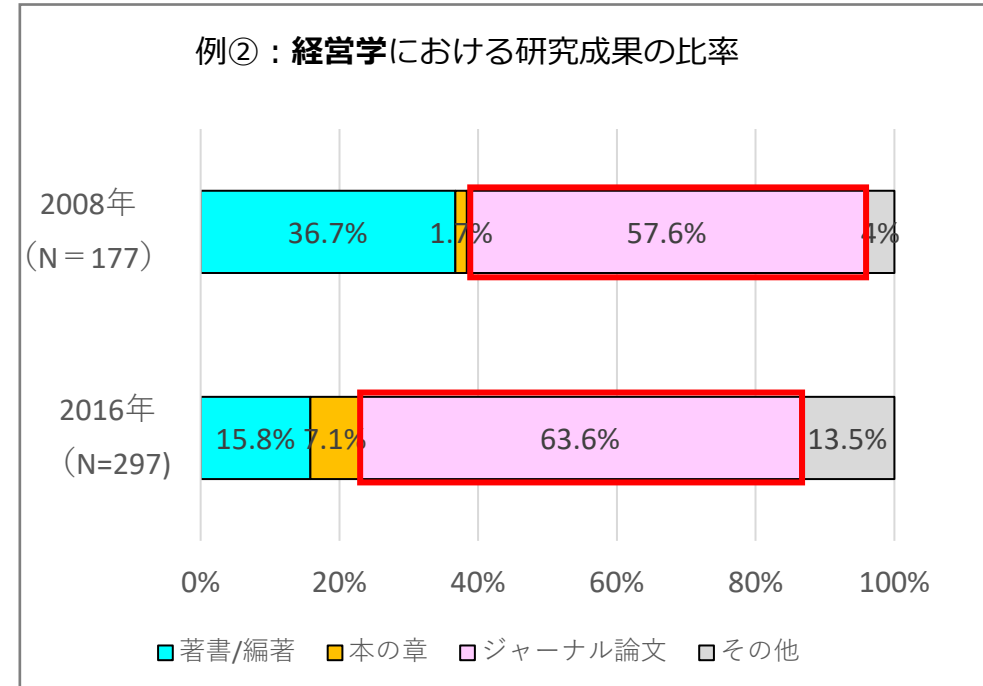
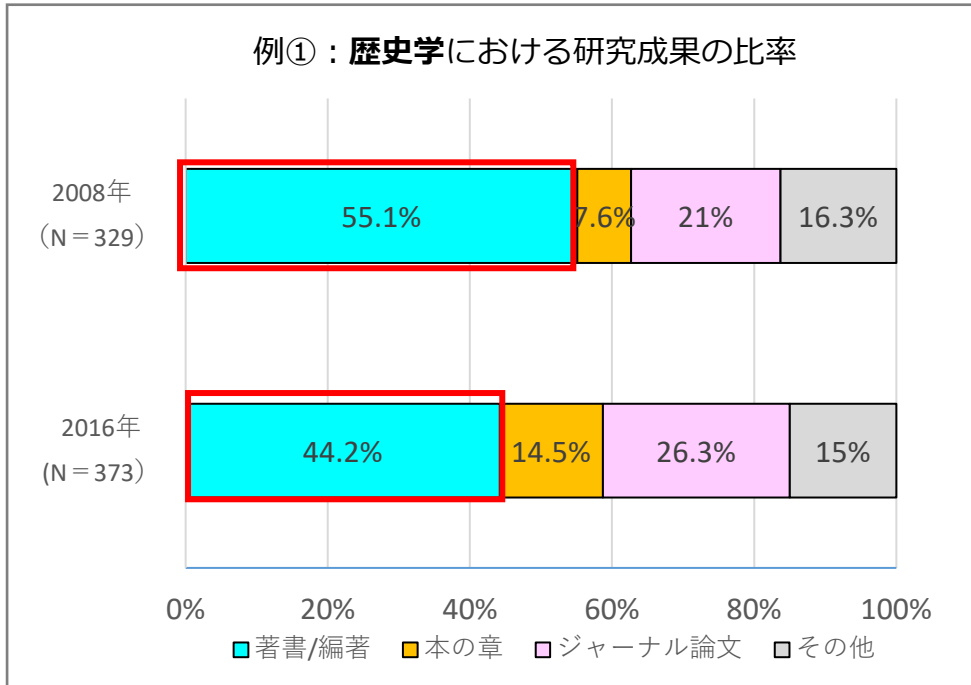
# 參考資料



# 人文学・社会科学における研究成果物の傾向（媒体の種類の違い）（例）

○人文学・社会科学内の各分野によっても、出される研究成果の媒体が異なる傾向。

（国立大学法人評価の研究業績水準判定（2008年、2016年）に提出された研究成果を見ると  
歴史学・・・著書／編著の比率が多い。  
経営学・・・ジャーナル論文の比率が高い。





## アウトプット※：人文・社会科学系

活動・成果の多様性

（※ GtRにおけるPublicationsに含まれる出版物としての成果物）

- 人文・社会科学系においても、論文が最も多く報告されているが、その集中度については分野間の差が大きい
  - ◆ 集中度が高い（6-8割）：心理学系、歴史学系、思想芸術系
  - ◆ 集中度が低い（4割強）：法学系、文学・言語系
- 法学系及び文学・言語学系では、学会予稿や書籍チャプターの割合が高い

※19種類中、上位10種のみ  
(各分野、98%程度をカバー)

		Journal Article/Review	Conference/Paper/ Proceeding/Abstract	Book Chapter	Other	Working Paper	Book	Policy briefing/Report	Technical Report	Book edited	Consultancy Report
シェア	01 思想、芸術	61.6%	13.9%	12.5%	2.9%	1.5%	3.8%	1.0%	0.5%	1.0%	0.3%
	02 文学、言語学	41.8%	22.0%	18.7%	4.3%	2.2%	6.0%	0.7%	0.4%	1.9%	0.2%
	03 歴史学、考古学など	62.9%	11.0%	13.1%	2.4%	1.5%	4.0%	0.8%	0.9%	1.3%	0.4%
	04 法学	49.1%	17.9%	10.6%	8.5%	4.5%	3.2%	2.6%	0.9%	0.9%	0.5%
	05 文化人類学など	43.9%	14.3%	17.0%	7.5%	4.8%	4.5%	4.4%	0.9%	0.6%	1.2%
	06 政治学	42.1%	10.2%	10.1%	19.9%	6.8%	3.2%	4.5%	1.0%	0.6%	0.7%
	07 経済学、経営学	58.7%	16.3%	6.4%	3.6%	9.2%	1.6%	1.9%	0.8%	0.2%	0.5%
	08 社会学	56.0%	19.5%	8.6%	3.8%	4.9%	2.4%	2.1%	0.9%	0.4%	0.5%
	09 教育学	45.5%	22.3%	11.7%	4.6%	7.6%	2.4%	2.6%	0.9%	0.5%	0.7%
	10 心理学	80.7%	9.7%	4.6%	1.2%	1.3%	0.8%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%
実数	01 思想、芸術	19,521	4,418	3,972	907	463	1,211	318	172	330	83
	02 文学、言語学	5,066	2,658	2,261	520	268	724	89	45	230	27
	03 歴史学、考古学など	8,185	1,436	1,705	306	192	515	104	116	175	50
	04 法学	18,808	6,844	4,064	3,272	1,725	1,210	997	344	327	208
	05 文化人類学など	4,300	1,399	1,667	733	469	445	430	92	63	119
	06 政治学	11,790	2,860	2,826	5,568	1,895	904	1,269	269	176	207
	07 経済学、経営学	53,958	15,008	5,840	3,312	8,446	1,500	1,717	757	229	426
	08 社会学	21,107	7,328	3,254	1,417	1,846	886	782	324	139	207
	09 教育学	6,983	3,430	1,793	708	1,166	369	396	135	71	111
	10 心理学	31,176	3,748	1,792	451	498	323	180	83	54	47

人文・社会科学 という枠の中だけでも、さまざまな違いがある

出典：赤池伸一・岡村麻子「人文・社会科学に関する調査 研究成果の多様性の可視化及び科学技術と社会の指標化を中心に」、文部科学省 第11期人文学・社会科学特別委員会 第9回（2022年1月28日）。



## アウトカム※：人文・社会科学系

（※ GtRIにおけるOutcomesに含まれる短中期的な効果、出版物以外の成果物等）

活動・成果の多様性

- 普及活動関連が最も多く報告されているが、その集中度には分野間の差
  - ◆ 集中度が高い（7割程度）：法学関係，教育学関係，経済学関係
  - ◆ 集中度が低い（5割～6割）：思想・芸術系，歴史学系，心理学系
- 協働活動も多く報告されている（特に歴史学・考古学、思想・芸術、心理学系で多い）
- 思想・芸術系 や 文学・言語学系では芸術的・創造的成果がやや多い

		artisticAnd CreativeProduct	collaboration	dissemination	furtherfunding	impactSummary	intellectualProperty	keyFinding	policyInfluence	product	researchDatabase AndModel	researchMaterial	softwareAnd TechnicalProduct	spinOutmemo
シェア	01 思想, 芸術	7.4%	13.6%	54.5%	6.7%	4.6%	0.2%	5.4%	3.0%	0.0%	2.4%	0.9%	1.1%	0.1%
	02 文学, 言語学	6.5%	11.4%	61.9%	5.4%	4.1%	0.0%	4.5%	2.6%	0.0%	2.1%	0.7%	0.8%	0.0%
	03 歴史学, 考古学など	4.8%	14.1%	58.8%	6.6%	4.0%	0.1%	5.2%	2.7%	0.0%	2.4%	0.7%	0.6%	0.0%
	04 法学	3.8%	10.3%	63.1%	6.2%	3.6%	0.0%	4.0%	5.2%	0.0%	2.3%	0.8%	0.6%	0.1%
	05 文化人類学など	2.3%	8.2%	69.7%	3.8%	3.2%	0.0%	3.5%	7.2%	0.0%	1.3%	0.5%	0.2%	0.0%
	06 政治学	2.7%	9.4%	66.1%	5.3%	3.3%	0.0%	3.6%	6.5%	0.0%	2.1%	0.7%	0.2%	0.0%
	07 経済学, 経営学	1.5%	8.7%	67.4%	5.9%	2.7%	0.1%	3.1%	6.7%	0.0%	2.5%	0.7%	0.7%	0.1%
	08 社会学	2.2%	8.7%	65.5%	6.3%	3.2%	0.1%	3.9%	6.7%	0.0%	2.2%	0.7%	0.5%	0.0%
	09 教育学	1.9%	8.8%	68.3%	5.1%	2.6%	0.1%	2.9%	6.4%	0.0%	2.1%	1.1%	0.6%	0.1%
	10 心理学	1.2%	12.8%	60.4%	9.9%	2.4%	0.2%	3.0%	5.9%	0.3%	1.7%	1.5%	0.6%	0.1%
実数	01 思想, 芸術	3,597	6,560	26,400	3,261	2,238	120	2,604	1,459	10	1,177	417	518	36
	02 文学, 言語学	1,572	2,736	14,883	1,306	975	12	1,078	628	1	506	167	189	10
	03 歴史学, 考古学など	1,224	3,612	15,092	1,686	1,028	15	1,341	685	1	606	192	163	6
	04 法学	2,207	5,972	36,739	3,602	2,100	23	2,351	3,030	0	1,342	481	355	30
	05 文化人類学など	496	1,741	14,821	808	684	3	745	1,521	1	284	96	45	5
	06 政治学	1,141	4,007	28,159	2,270	1,395	15	1,537	2,757	3	900	285	94	16
	07 経済学, 経営学	1,546	9,009	69,785	6,070	2,787	122	3,222	6,922	31	2,595	741	685	60
	08 社会学	1,118	4,429	33,280	3,202	1,622	58	1,973	3,417	12	1,106	372	237	17
	09 教育学	505	2,366	18,336	1,358	687	36	773	1,730	11	574	298	170	17
	10 心理学	566	5,889	27,821	4,556	1,106	72	1,369	2,717	143	775	708	286	35

出典：赤池伸一・岡村麻子「人文・社会科学に関する調査 研究成果の多様性の可視化及び科学技術と社会の指標化を中心に」, 文部科学省 第11期人文学・社会科学特別委員会 第9回 (2022年1月28日).

# 人文学・社会科学と自然科学の研究成果物の違い

- 自然科学分野における主な研究成果物はジャーナル論文
- 一方、人文学・社会科学における研究成果物は多様であることが推察

国立大学法人評価において提出された研究成果のうち、Scopusへの収録状況について研究分野毎に比較したところ、人文学・社会科学の多くは自然科学に比べて、収録率が少ない（人文学・社会科学の研究活動の言語的多様性の影響もあるのではないか）。

人文学・社会科学は他分野に比べて収録率が低い。

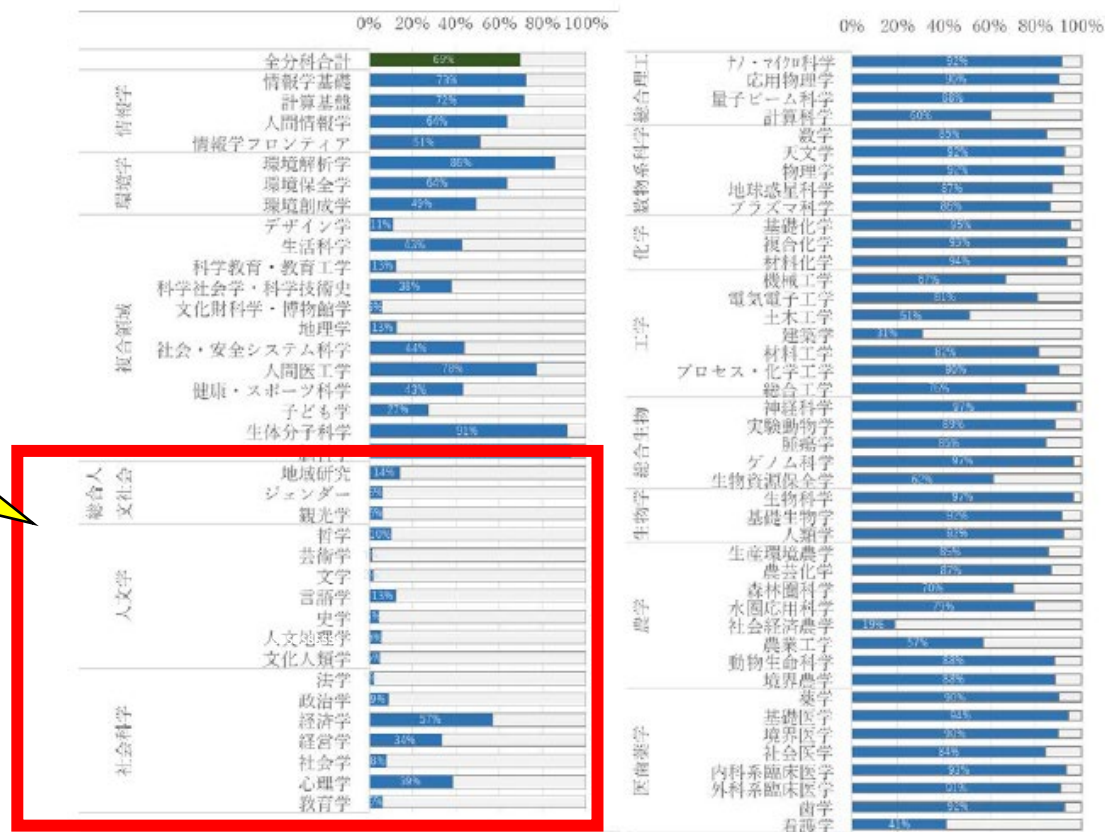
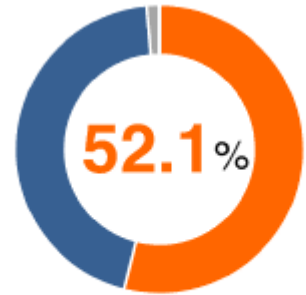


図 4 第二期国立大学法人評価において提出された研究成果の Scopus 収録状況

# 人文学・社会科学におけるプレプリントの入手状況・公開状況

○人文学・社会科学の回答者の内、プレプリントの入手経験があると回答した割合は31.0%（心理学は44.4%）、プレプリントの公開経験があると回答した割合は6.9%（心理学は33.3%）だった。



■ はい ■ いいえ ■ わからない

プレプリントの入手経験 (n=1,448)

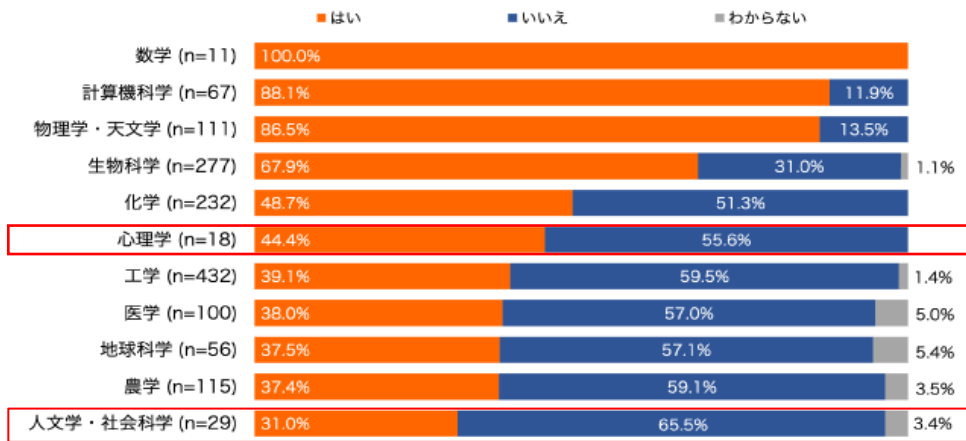
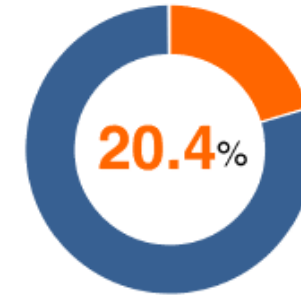


図 7 分野別プレプリントの入手経験 (n=1,448)



■ はい ■ いいえ ■ わからない

プレプリントの公開経験：全体 (n=1,448)

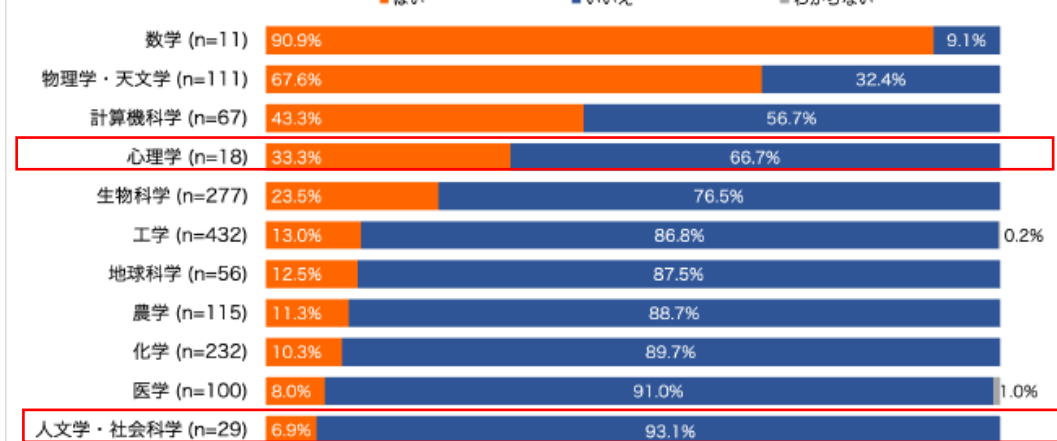


図 13 分野別プレプリントの公開経験 (n=1,448)

# 人文学・社会科学におけるプレプリントの利用に関する展望

○人文学・社会科学の回答者の内、プレプリントの利活用に関する今後の展望について、「進むと思う」と「やや進むと思う」の選択した割合は35.7%だった（心理学は50.0%）。

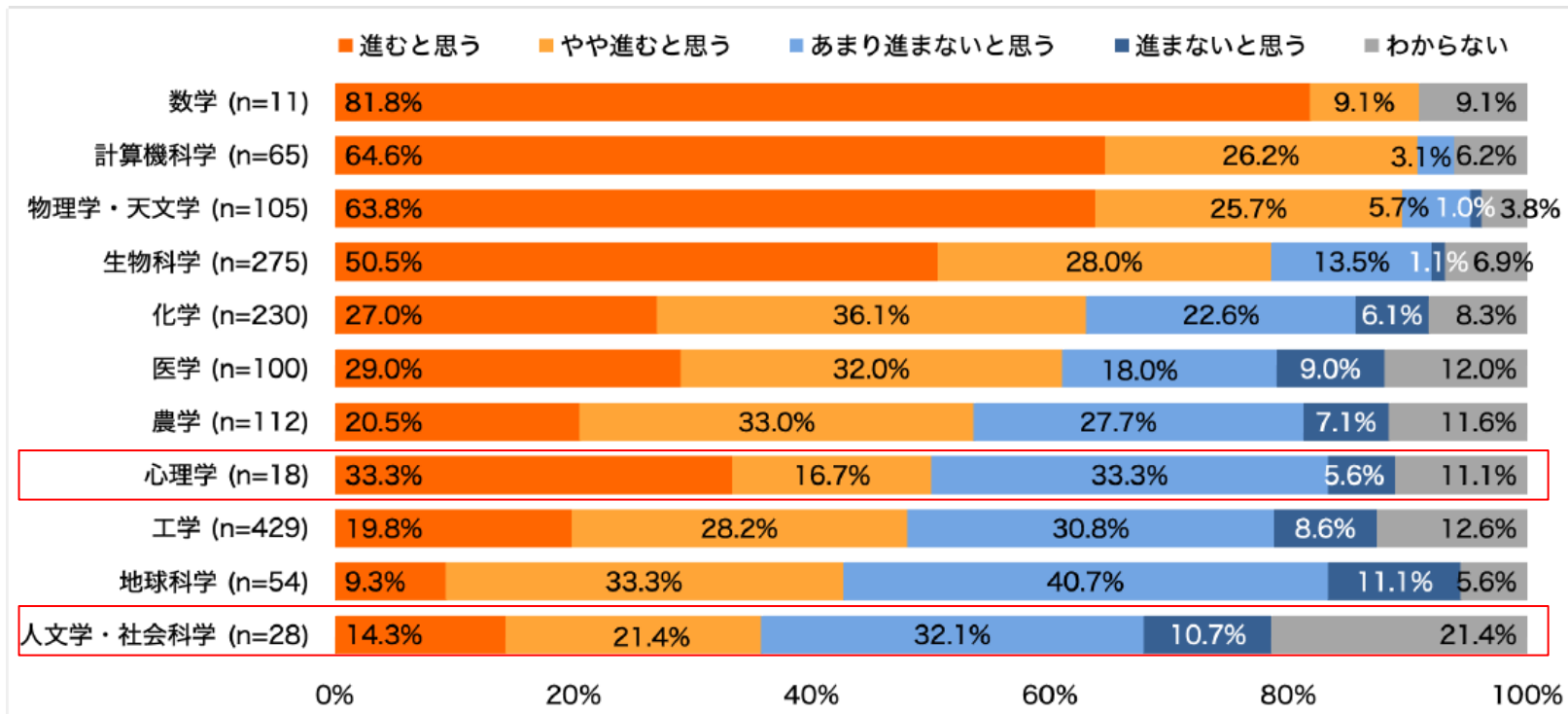


図 88 分野別分野の展望 (n=1,427)

○人間文化研究機構にて作成した被引用文献の中から、雑誌論文と書籍論文の傾向を見ると、研究成果は雑誌論文だけでなく、書籍論文も出されている。

文学研究を行う国際日本文化研究センターや国文学研究者が大半を占める国文学研究資料館では書籍論文の比率が大きく、情報系と研究の性質に近い国立国語研究所、自然科学系や情報系との連携研究が多い総合地球環境学研究所は比較的書籍論文の比率が小さい。

平成27年度人間文化研究機構の研究成果における雑誌論文と書籍論文の比率

	雑誌論文：書籍論文
国立歴史民俗博物館	1：1
国文学研究資料館	1：4
国立国語研究所	1：1
国際日本文化研究センター	1：8
総合地球環境学研究所	2：1
国立民族学博物館	1：3.5

※国立歴史民俗博物館の主たる研究対象である日本史学、国文学研究資料館の対象である日本文学、国立国語研究所の対象である日本語学、国立民族博物館の対象である文化人類学に関する「クオリティ・ペーパー」とされる学術雑誌の論文の被引用一覧は次の通り（残りが書籍等の被引用）。 日本史 約35% 日本文学 約35% 日本語学 約40% 文化人類学 約25%

## 諸外国の事例（ノルウェーモデル）

- 自国語で出版された研究成果を「量」「質」の両面から捉える試みとして、ノルウェーモデルが挙げられる。
- ノルウェーモデルを導入するためには下記の3要素が不可欠であり、①（人文・社会科学を含めた）全分野のピアレビュー学術文献に関する適切かつ構造化されたデータベースが構築されていない我が国では、現状導入には課題が多い。

ノルウェーでの出版ポイントの重み付け  
(Sivertsen 2010, 2015から訳出・作成)

	レベル1 出版物	レベル2 出版物 (ハイインパクト出版物)
ISSN番号のある学術雑誌掲載論文	1	3
ISBN番号のある学術編著掲載論文	0.7	1
ISBN番号のある学術書	5	8

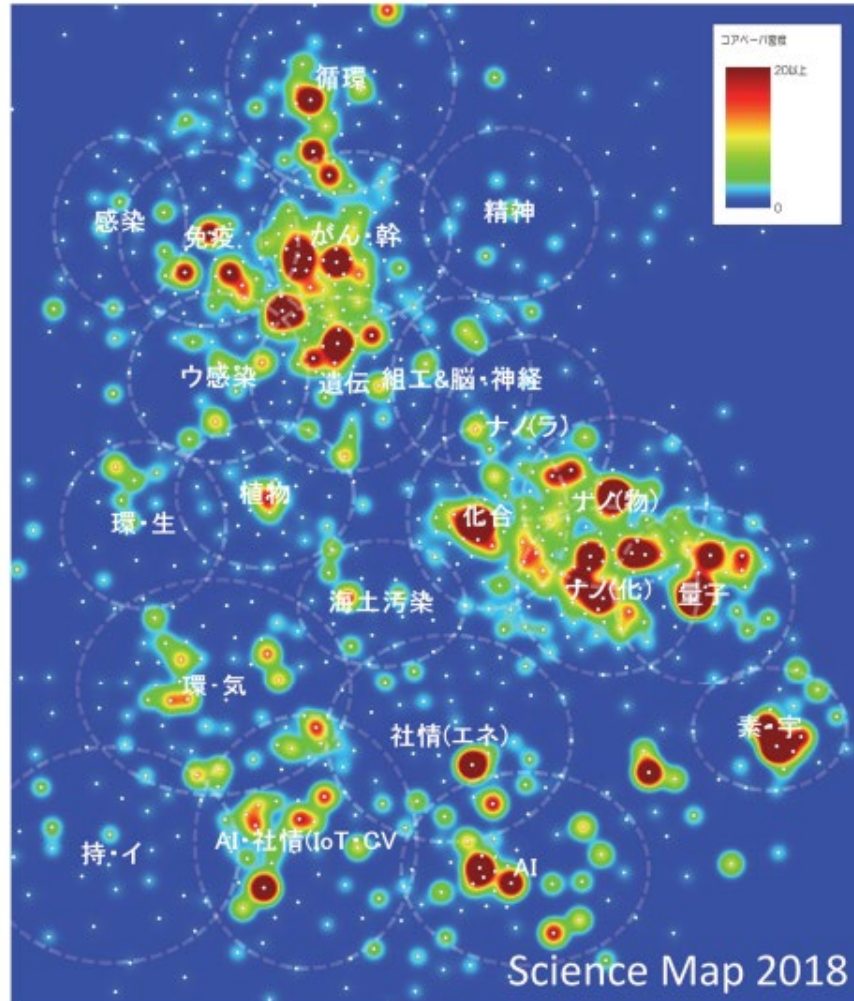
- ① （人文・社会科学分野を含めた）全分野のピアレビュー学術文献に関する適切かつ構造化されたデータベースの構築
- ② 機関レベルで比較可能で分野毎の出版文化に応じた重みづけがなされた『出版ポイント』の規定
- ③ 出版ポイントによるパフォーマンスベースのファンディングモデル



# サイエンスマップ2018

○サイエンスマップとは、論文データベースの分析により、国際的に注目を集めている研究領域を定量的に抽出し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのかを俯瞰図として可視化したものである（科学技術・学術政策研究所において定期的に作成）。  
○サイエンスマップ2018では、国際的に注目を集めている研究領域として902領域抽出された。さらに、902研究領域それぞれの特徴を表す語（特徴語）の抽出を行い、サイエンスマップの大まかな内容を把握しやすいように、共通の特徴語を持つ研究領域の集まり（研究領域群）を定量的に判定し、研究領域群を示すガイドを参考としてマップ上に描いている。

概要図表 1 サイエンスマップ 2018 の全体像



短縮形	研究領域群名	短縮形	研究領域群名
循環	循環器系疾患研究	海土汚染	海洋・土壌汚染研究
感染	感染症研究	化合	化学合成研究
免疫	免疫研究	ナノ(ラ)	ナノサイエンス研究(ライフサイエンス)
がん・幹	がんゲノム解析・遺伝子治療・幹細胞研究	ナノ(物)	ナノサイエンス研究(物理学)
精神	精神疾患研究	ナノ(化)	ナノサイエンス研究(化学)
ウ感染	ウイルス感染症研究	量子	量子情報処理・物性研究
遺伝	遺伝子発現制御研究	素・宇	素粒子・宇宙論研究
組工&脳・神経	組織工学&脳・神経研究	AI	AI関連研究
植物	植物科学研究	AI・社情(IoT・CV等)	AI・社会情報インフラ関連研究(IoT・CV等)
環・生	環境・生態系研究	社情(エネ)	社会情報インフラ関連研究(エネルギー等)
環・気	環境・気候変動研究	持・イ	持続可能な発展・イノベーション研究

注1: 本マップ作成には Force-directed placement アルゴリズムを用いているため、上下左右に意味は無く、相対的な位置関係が意味を持つ。報告書内では、生命科学系が左上、素粒子・宇宙論研究が右下に配置されるマップを示している。

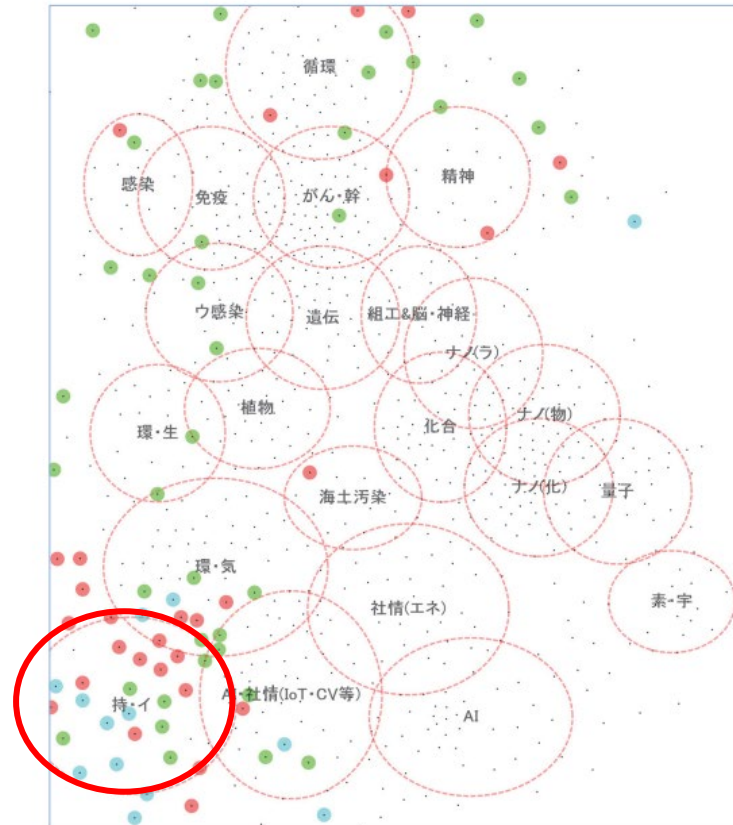
注2: 白丸が研究領域の位置、白色の破線は研究領域群の大まかな位置を示している。他研究領域との共引用度が低い一部の研究領域は、マップの中心から外れた位置に存在するため、上記マップには描かれていない。研究領域群を示す白色の破線は研究内容を大まかに捉える時のガイドである。研究領域群に含まれていない研究領域は、類似のコンセプトを持つ研究領域の数が一定数に達していないだけであり、研究領域の重要性を示すものではない。

データ: 科学技術・学術政策研究所がクラリベイト社 Essential Science Indicators (NISTEP ver.)及び Web of Science XML (SCIE, 2019 年末バージョン)をもとに集計・分析、可視化(ScienceMap visualizer)を実施。

出典: 「サイエンスマップ 2018」, NISTEP REPORT, No. 187, 文部科学省科学技術・学術政策研究所.  
<https://doi.org/10.15108/nr187>

- 社会科学等が関係している研究領域には、英語で論文が出版されることが多いグローバルなテーマ(持続可能な発展など)、特定の国に特有と思われるテーマ(電子タバコなど)が多い。したがって、サイエンスマップ上で観測される社会科学系の研究領域については範囲が限定的である点に留意が必要である。なお、人文科学は分析の対象となっていない。
- 社会科学等が関係している研究領域は、持続可能な発展・イノベーション研究領域群に集中している。

概要図表 7 社会科学等が関係している研究領域の位置



注: 赤色: 研究領域を構成するコアペーパーの6割以上が社会科学・一般に分類される研究領域(43領域)、空色: 研究領域を構成するコアペーパーの6割以上が経済・経営学に分類される研究領域(19領域)、黄緑色: 研究領域を構成するコアペーパーに社会科学・一般又は経済・経営学の論文を10%より多く含む研究領域(47領域)

データ: 科学技術・学術政策研究所がクオリベイト社 Essential Science Indicators (NISTEP ver.)及びWeb of Science XML (SCIE, 2019年末バージョン)をもとに集計・分析、可視化(ScienceMap visualizer)を実施。